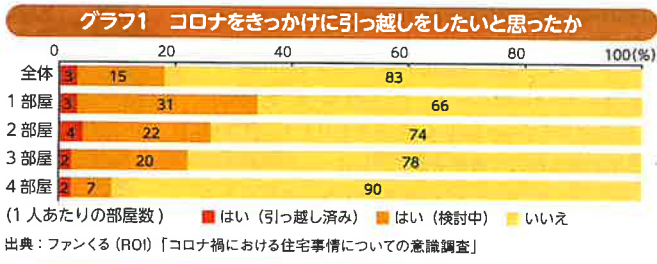


データから現状を読み取る

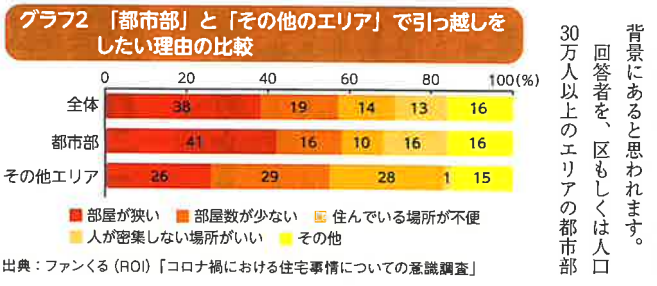
都市部では狭さから41%が引っ越しを検討 約2割が「近隣の音が気になる」

KEY WORD
**コロナ下での
 住宅事情**



部屋数確保のニーズ高まる
 新型コロナウイルスの流行をきっかけに、引っ越しをしようと思ったかどうかを聞いたところ、全体の15%が「検討中」、3%が「引っ越し済み」となりました(グラフ1)。

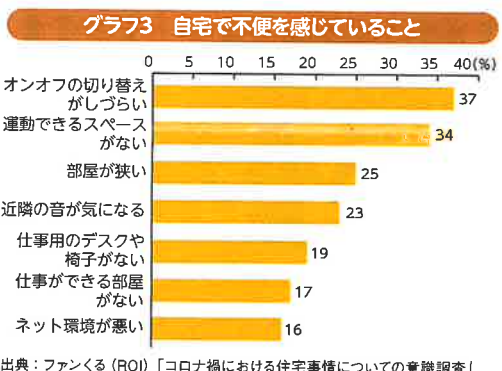
消費者参加型調査「ファンくる」を運営するROI(アールオーアイ…東京都千代田区)は4月26日〜5月6日、全国にいる会員を対象に「コロナ禍における住宅事情についての意識調査」を実施。1691人から有効回答を得て5月28日に結果を公表しました。それによると、在宅時間が増えたことで部屋の狭さや生活音などが気になり、引っ越しを検討している人が増えたことが明らかとなりました。



1人あたりの部屋数が1部屋の人31%が「検討中」と最も高くなっており、部屋数が少ないほど引っ越しの希望が強くなっています。テレワークや在宅時間の増加とともに、仕事部屋やパーソナルスペース確保へのニーズが高まってきたことが背景にあると思われます。回答者を、区もしくは人口30万人以上のエリアの都市部

と、それ以外のエリアに分けたところ、「引っ越しを検討中」は都市部で17%、その他のエリアは10%となりました。検討中の理由として、都市部は部屋の狭さが41%を占め、その他のエリアでは狭さが26%、部屋数の少なさが29%、不便さが28%などとなりました(グラフ2)。

生活に不便感じ広さ求める
 次に、自宅を不便と感じている点を複数回答で聞いたところ、「オンオフの切り替えがしづらい」が37%、「運動できるスペースがない」が34%、「部屋が狭い」が25%、「近隣の音が気になる」が23%などとなりました。自由回答では、「子どもがいると会議に集中できない」「上の階の音が気になる」など、生活音に関するコメントも多数



寄せられました(グラフ3)。日中の在宅時間が増えたことで、「近隣の音」が気になったり、テレワーク時の「家族の生活音」がビデオ会議の音声に入ってしまうという問題も顕在化しているようです。最後に、戸建てとマンションのどちらに住みたいと思っているか尋ねたところ、「戸建てに住みたい」「どちらか」という回答したのは、同居家族4人で計81%、5人以上は同84%で、平均は63%となりました(グラフ4)。

トレンドチェック

**チューリッヒ保険と提携
 生前・遺品整理サービスを割引**

NPO法人日本遺品整理士連合会

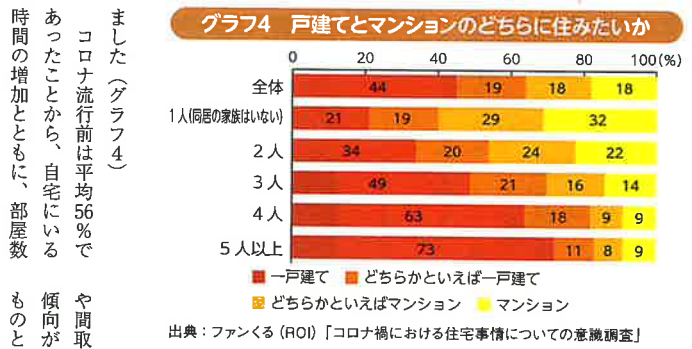
NPO法人日本遺品整理士連合会(東京都品川区)は8月、チューリッヒ保険(東京都中野区)と提携し、同保険が提供するシニア傷害保険の加入者120万人に対し、「生前整理/遺品整理業者紹介・割引サービス」を開始しました。

対象はシニア傷害保険の被保険者で、遺品整理の場合はその遺族となります。企業紹介のほか、生前整理や遺品整理にかかった費用の5%を割り引きます。

同連合会は、全国の生前・遺品整理、特殊清掃を年間4万件以上受け付けています。東京23区の場合、賃貸住宅に関わった案件は7~8割を占め、依頼件数は年々増加傾向にあるとのこと。

シニア世代の終活への関心が高くなる一方で、トラブルも増加。同連合会の長谷川正芳常務理事は「事業者の不法投棄や、高額な請求をされたという利用者からの相談も後を絶たない」と話します。

同連合会では、利用者が安心してサービスを受けられるよう、身辺調査を行った生前・遺品整理を手がける企業約200社を紹介しています。



や間取りの広さなどを求める傾向がより強まってきたものと思われる。

